

お土産品販売やお弁当の予約販売などがある「正助ふるさと村」。四季折々の景色が広がり、吉武に訪れた際はぜひ。



スポーツや食事、宿泊などが楽しめる多目的のスポーツ総合施設「グローバルアリーナ」



深夜に行われる 幻想的な祭「おくんち」

300年ほど前に始まったといわれる「八所宮のおくんち」は、毎年10月第3土曜の夜中から日曜にかけて行われ、「御神幸祭」とも呼ばれる。山の幸、海の幸を神前に備えて神のお恵みに感謝し、五穀豊穡(米・麦・あわ・豆・きびが豊かに実る)と、無病息災(病気をせず元気に)を共に喜び願う。いつの頃からか大名行列も加わることとなる。

Yoshitake 吉武

Theme **神 仏**

About 吉武地区とは武丸と吉留を併せた校区。その昔、この地域は吉武村となっていた今も農業が盛んな地域。

市内の小学校歌でも必ず出てくる、宗像市民には馴染み深い一級河川「釣川」。その源流にあたるこの地は東部を山々に囲まれ、その隙間を縫うように遠賀、鞍手へと抜ける道がある。昔の人はここを通して魚を売りに行っていたのか、など想像してしまう。また、それらの道に沿うように河川があり、その周りに水田が広がる。



長宝寺観音堂



杜に囲まれた参道の先に境内があり、お守りの販売や御朱印も書いてもらえます。



4 夫婦 組祀の 神様が られる 地。



国道3号線から吉武方面へ向かうと見えてくる特徴的な煙突。酒蔵「伊豆本店」は八所宮の鳥居のすぐそば。



市の花であるカノコユリ。宗像は全国でも珍しい自生地。7月中旬～8月中旬が見頃。



5月の早朝には八所宮参道から昇る朝日を拝むことができる。これを地元の人々は「瑞光」と呼んでいる。

この地の由来と
先祖神4夫婦

神武天皇がこの地を訪れた際に、神武天皇の先祖神が武人の装いで赤い馬に跨り、皇軍の前に現れ、道案内をした。その際に神が吉き地として留まり「吉留」と、赤い馬から「赤馬」とそれぞれの地名の由来となった。また神武天皇の前に現れた先祖神を含む神代四夫婦八柱と呼ばれる、

泥土煮尊・沙土煮尊
大戸道尊・大古辺尊
面足尊・惶根尊
伊茨諾尊・伊茨册尊

の4夫婦、8神(柱)をお祀りすることで「八所宮」となった。4夫婦の神様をお祀りするのは、全国でも珍しいのではないだろうか。夫婦やパートナーと共に参りするとなにかご利益があるかもしれない。また、宗像大社の祭神は天照大神の娘である宗像三女神だが、その源流にその子孫である神武天皇がこの地を訪れたことや、先祖の神々が祀られていることは、とても興味深い。

宗像を訪れる際はぜひどこか懐かしい景色と、日本人のルーツを感じる吉武にも立ち寄ってみてください。

その山々のひとつ、戸田山の麓にある杜をこの土地の人々は鶴鶴山と呼び、「カミ」と崇めた。その場所に飛鳥時代(674年)に「八所宮」は創建された。その成り立ちには、日本の初代天皇である神武天皇が東征の際に立ち寄った逸話が神社帳由緒や八所宮祠官二川友吉の縁起記録に残されている。

その山々のひとつ、戸田山の麓にある杜をこの土地の人々は鶴鶴山と呼び、「カミ」と崇めた。その場所に飛鳥時代(674年)に「八所宮」は創建された。その成り立ちには、日本の初代天皇である神武天皇が東征の際に立ち寄った逸話が神社帳由緒や八所宮祠官二川友吉の縁起記録に残されている。

カミと崇めた地に訪れた初代天皇

宗像は歴史が深く世界遺産、沖ノ島を含む宗像大社や朝鮮半島との交流もあつてか、市内には神社やお寺が思いの外多い。多くの観光客は宗像大社のある海側に目が行きやすいのだけれども、その実、玄界灘へと流れ出る源流となる山側にも深い歴史がある。その中でも初代天皇との歴史がある吉武地区を今回は紹介。山脈を背に田畑が広がる、日本のいわゆる昔ながらの田舎を感じる景色を持つ。そんな肥沃な土地でもあり、今も酒蔵が残るなど、古い建物も未だ少なからず残っており吉武地区に赴くと農耕が盛んであったことが感じられ、懐かしい気持ちになる。